



# JAあそだより

平成22年 6月



山吹水源(産山村)

## ■今号16ページ主な内容

- 青壮年部、女性部通常総会開催
- 各生産部会の生育・出荷状況
- セルフスタンド新「阿蘇町SS」オープン
- 地域に広がる子供たちとの農業体験交流



## JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5  
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

# 表彰式や記念講演、青壮年部・女性部で通常総会

**J A阿蘇青壮年部**  
重点活動として組織活性化など  
4項目を掲げる



青壮年部通常総会の様子

J A阿蘇青壮年部は2009年度通常総会を4月9日、ホテルサンクラウン大阿蘇で開き、代議員、県青協委員長、J A関係者ら約50人が参加しました。倉岡誠喜部長が「地域農業が衰退していく中、青壮年部盟友の力が必要です。本年は専門部会の立ち上げを行い、部員間の交流をもっと深めていきたいと思います」とあいさつ。議事では今村孝明さんを議長に09年度事業報告・収支決算、2010年度事業計画・収支予算など3議案を可決、



挨拶する倉岡誠喜部長



記念講演を行った塩谷さん(左)と室さん

承認しました。

10年度の重点活動として「J A青壮年部組織活性化」「J A運営への参画」「農商工連携事業の促進」など4項目を掲げ、今後の活動を積極的に取り組むことを協議しました。

総会前には、インタビューで阿蘇に就農した塩谷先さんと地元でアスパラ栽培している室治夫さんが記念講演を行い、部員は真剣な表情で話を聞いていました。

**J A阿蘇女性部**  
新たに「加工品コンクール」  
実施などを決める

J A阿蘇女性部の2009年度通常総会が4月21日、ホテル角萬で開かれ、役員や各支部の代議員、J A役員ら63人が出席しました。杉本いよ部長が「農業経営は厳



女性部通常総会の様子  
女性部役員の写真(写真左下)



しい状況下にあります。それだけに女性部への期待や役割はますます大きくなっています。今年度も女性組織の活性化をいっそう図りながら青壮年部とも協力し、J A運営に積極的な参加を進め、事業展開を行っていきましょう」とあいさつ。

議事では、議長に大和とよ子さんを選び、第1号議案から第3号議案まで承認され、今まで行っていた家庭菜園コンクールに代わって「加工品コンクール」を9月に実施することを決めました。総会閉会後は、家の光講師の萬野保子さんによる講演「めくばり・きくばり・人生長生き」が行われました。

また、女性部活動に功労があった菅美佐子さん(二の宮支部)、光木精子さん(白水支部)、甲斐かつ子さん(蘇陽支部)、江入衣美さん(阿蘇町支部)の4人に、杉本いよ部長から感謝状が贈られました。



子供らが育て加工した  
豆腐・納豆を蒲島知事へ贈呈



関係者（写真右）を訪問した蒲島知事（写真左）の前で、納豆・豆腐の児童代表が作文を朗読する様子。

J A阿蘇青壮年部高森支部は4月2日、高森中央小4年生4人に高森町・同町農業委員が同行し、耕作放棄地再生農地で子供たちが収穫した大豆で加工した豆腐・納豆を、蒲島都夫熊本県知事へ贈りました。

当日は、三森伸治高森支部長よりこれまでの活動報告が行われ、高森中央小の代表3人が作文を朗読しました。蒲島知事よりお礼の挨拶があり、その後、豆腐・納豆

の試食、記念撮影が行われました。同支部は、青壮年部と子供たちの方で耕作放棄地を解消しようと、県の目玉事業である「子供たちによる耕作放棄地再生モデル事業」に取り組み、町内で解消可能な耕作放棄地14haのうち23aの水田を借り、地大豆「みさを大豆」の栽培を行っています。収穫した大豆は約80kgあり、J A阿蘇女性部の協力で豆腐・納豆作りを行いました。試食した蒲島知事は「大豆そのものの味がいいね」と感想を述べました。

セルフ式の新「阿蘇町SS(給油所)」  
オープンイベント大成功



オープンした「阿蘇町SS」



阿蘇町SSスタッフの皆さん



阿蘇町SS落成式の様子



大好評だったオープンイベント

J A阿蘇の「阿蘇町SS」が4月2日オープンしました。新SSの場所は、国道57号から国道212号へ入り内牧方面へ2kmほど進んだ所です。新SSは阿蘇町中央支所管内にあった4施設の老朽化に加え、地下タンクの経過年数による漏洩の危険性回避、さらに配送の集約化などの目的で、J A阿蘇の合併当時から計画されていたものです。

落成式では伊藤照行所長が「組合員の皆さまの経済的負担低減と、お年寄りにも安全で安心して給油できるよう、より細かな接客対応を行うしていきます」とあいさつしました。

新施設は3次元ガラス繊維織物を使用したFF2重殻タンクを埋設しており、県下J Aでは初の採用です。新SSの広さは延べ677㎡、同時に4台の給油が可能で、J A阿蘇では小国郷SSに続いて2店舗目のセルフ式スタンドとなっています。

3月31日に仮オープンした阿蘇町SSは4月2日から3日間オープンイベントを開催。3日間で販売計画の揮発油30kを大幅に上回る35kの販売実績を上げました。なお、営業時間は午前7時〜午後9時。電話は0967(32)5539。

南小国中の早乙女・田男が田植え  
10月下旬に皇居で  
献穀献納式



南小国町赤馬場で5月16日、行政や地元中学校、JA関係者ら約60人が参加し、天皇陛下に献上する米を作る宮中献穀事業の御田植祭が行われました。

水田では早乙女、田男に選ばれた南小国中学校1年の男女8人が、大勢の地域住民が見守る中、神宮から渡された早苗を植えました。この日、植えられたのは地域で多く栽培されている「あきげしきこ」で、献穀米・献穀粟栽培者である北信一さんが無農薬で栽培します。

事業に取り組むのは、行政やJA阿蘇などで作る南小国町献穀事業推進実行委員会(会長＝河津町長)で、既に4月6日の清祓祭きよはらいさい、4月16日の播種祭

(はしゆきい)から、当日の御田植祭、そして実った稲穂を刈り取る10月の抜穂祭(ぬきほきい)、その後、奉告祭(ほうこくさい)、10月下旬には献穀献納式が皇居で行われ、実った稲が献上されます。

写真上：皇居に稲を植える南小国中の早乙女・田男

### 地域の景観を守ろう！ 耕作放棄地の除草作業など行い 青壮年部の宮支部

JA阿蘇青壮年部一の宮支部は6月2日午後6時から日没までの1時間30分間、JA阿蘇一の宮中央支所一の宮農場周辺や耕作放棄地の除草作業とゴミ拾いを行いました。

当日は農作業の忙しい中、「地域の景観を守ろう、環境美化運動」のスローガンの下、盟友約35人が参加しました。作業にあたり、倉岡誠喜支部長は「今年度第一回目から多くの盟友が集まってもらい、ありがとうございます。今年度で2年目になり、昨年同様10回以上の作業を計画しています。地域のために一緒に汗を流しましょう」と挨拶しました。

この活動は昨年度から月1回、夕方2時間の時間を作り、地域の景観を良くしようという趣旨で

始められ、併せて青壮年部盟友個々が共同作業をすることによる連帯感、親睦を深めるなどの目的でスタートした事業です。作業終了後は、第一回目ということもあり懇親会が開催され、若い盟友からベテランの盟友にいろいろな相談などもあり、20歳代の盟友は「このような活動を通じ、自分の経営を相談しながら今後に活かしたい」と抱負を語っていました。

次回は7月7日(水)午後6時から予定です。地域の方からの要望も受け付けています。問い合わせ先一一の宮支部事務局・井手友和(電)0967-322223宮農部。

写真左：日没まで作業し汗を流す様子



### 1270kgのゴミを回収 水土里ネット阿蘇



水土里ネット阿蘇(阿蘇土地改良区)は4月24日、「阿蘇クリーン作戦」を阿蘇市一の宮地区二帯で行い、JA・土地改良区・阿蘇市建設業協会・区長会等60団体から781人が参加。一帯の道路約18kmにわたり空き缶やペットボトルなど約1270kgのゴミを回収しました。

今回で3回目となるこの活動は、水源地域における灌漑機能や良好な森林水環境の形成を図る目的で行われています。次回は10月に実施予定です。

写真右：ゴミ拾いをする参加者



5月連休頃に出荷開始

■南部地区



〔4月21日発信〕JA阿蘇南部地区では、寒の戻りや日照不足に負けず「阿蘇メロン」がすくすくと生育しました。同地区では例年、管内の平坦部より出荷が始まり、山間部へリレー販売をすることで消費地での評価を高めています。

4月21日、西原村の久野弥さんのハウスではホームランメロンの出荷を目前に控え、当日、販売担当者による状況確認があり、出荷開始は昨年同様の5月連休頃になる見込みとなりました。出荷されるのは「ホームラン」で、これらは2月上旬に定植が行われ、3月中旬以降より交配作業が行われたものです。

2010年度の西原地区メロン栽培面積は80.9a(前年比105%)で、生産者数は3名(前年同)、品種構成はホームラン14a、肥後グリーン66.9aとなっています。

写真上：生育状況を確認するJA職員

3〜2し中心で玉肥大良好

〔5月7日発信〕西原集荷所では春メロンの出荷が5月3日より始まりました。「ホームラン」が5月下旬、「肥後グリーン」が6月上旬まで出荷予定です。南部地区では収穫・出荷期間に切れ間が出ないよう同地区の高低差を利用し、低地から山間部へかけて例年リレー販売を行っています。今年はやや生育が遅れたものの玉肥大は良好で3し〜2し中心で、販売担当の副田慶太職員は「例年以上の出来で、美味しく、安全安心のメロンを消費者へ届けることが出来る」と自信を持っていました。

同地区のメロン部会は、ボジティブリスト制度を遵守するとともに、消費者の手に渡っても生産者が特定できるように生産者番号



入りのシールを1玉ずつ貼って出荷しています。出荷は日量5kg、8kg詰め共に約100ケースを中国・九州地区へ出荷しており、6月上旬までに12tを予定しています。写真上：品質チェックを行う出荷職員

「場外ホームラン」数量限定のため品切れも



〔5月18日発信〕JA阿蘇白水メロン部会では、すくすくと生育した「場外ホームラン」の本格的な出荷を5月末より始めました。同地区では約10年前から同部会が規格外品を有利販売するために取り組んでおり、年々、固定客も増えていきます。「場外ホームランメロン」とは、通常1株に6個着果するのを3個に制限し、大玉で甘い、高品質のメロンとして栽培。収穫間際に土壌水分をスムーズに切らすために、雨の多い梅雨時期を避け栽培しています。

部会では生産者の写真も撮影し、出荷時に自分で作ったメロンと一緒に紹介文も消費者へ届けるようにしています。出荷は6月中旬の予定となっていますが、数量限定のため品切れの場合もあるそうです。写真上：肥大が進む「場外ホームラン」

次は「肥後グリーン」の出番だ！  
「場外ホームランメロン」販売終了  
白水メロン部会

〔6月初め発信〕JA阿蘇白水メロン部会の「場外ホームランメロン」の販売が好調のうちに終了しました。今年は玉肥大時期の天候不順が影響し昨年よりも肥大が進まず、当初の予定数量には届きませんでした。

「場外ホームランメロン」は数量限定のため、5月中旬より予約受付が始まり6月初めには受付を終了しました。今後は受付分を順次発送していきます。

「場外ホームランメロン」の受付は終了しましたが、今後は「肥後グリーン」2玉入りが2100円、「ホームランメロン」4玉入りが2600円で産直対応をします。お問い合わせは「南部野菜センター」(電)0967(62)9976。

「安定供給めざし」出荷査定会  
JA阿蘇中部メロン部会



他品種については6月上旬の出荷を見込んでいます。作付面積95a（前年対比100%）、生産者8人（前年同）、販売計画1千万円（前年対比110%）を計画。販路は、選果場売りが主で、市場出荷は近畿地方を予定しています。

佐藤修一園芸課主任は「今後、圃場で糖度診断をして、他産地に負けない食味のメロンを販売したい。また、例年どおり生産履歴などの提出物を初出荷時に出していたいただきたい」と話しています。（写真＝挨拶をする藤原和幸部会長）

食味抜群「逆転満塁ホームラン」  
1週間ほど遅れて出荷始まる  
中部メロン部会

JA阿蘇の阿蘇町野菜選果場で特産の「逆転満塁ホームランメロン」の出荷が5月31日から始まりました。2010年度は3月上旬から定植が始まり、低温で推移したため1週間ほど遅れての出荷となりました。

今年は寒暖の差があるため、肥培管理が難しかったのですが、食味は糖度15度以上と申し分ありません。

今年度はホームラン・アンデス・肥後グリーンの3品種のメロンで、ホームランについては5月下旬、

阿蘇中部メロン部会では、3品

販売目標9億8400万円  
中部トマト部会で取引会議

JA阿蘇中部トマト部会は5月27日、2010年度産トマト取引会議を阿蘇市で開き、部会役員や

種（ホームランメロン・アンデスメロン・肥後グリーンメロン）の栽培に取り組んでおり、6月上旬から約10日間ごとに3品種の出荷が6月中旬まで行われます。

生育良好のメロンを見て販売担当の宮川大樹職員は「今年の逆転満塁ホームランメロンは品質・食味とも良好で、自信を持って出荷できる」と語っていました。（写真左＝食味抜群の逆転満塁ホームランメロンを持つ職員）



挨拶をする渡辺利幸部会長

行政、取引7市場、JA関係者ら約50人が参加しました。

冒頭の挨拶で渡辺利幸部会長は「新鮮で安全なトマトを安定供給し、消費地との相互理解と信頼関係による販売体制を確立し、生産・流通コストの上昇に見合う販売価格の確保を目指したい」と力強く述べました。

会議では最初に指導員の平野伸太郎職員より生産状況の説明があり、栽培面積（34ha）前年対比100%や品種構成、作柄概況などを報告しました。続いて、本年産の基本方針や出荷計画、販売戦略など5項目を協議。生産販売体制を強化し、市場と連携を図り、有利販売を目指すことを確認しました。部会では今年販売目標を9億8400万円、82万ケース（1ケース4k・1ケース1200円）を目指します。

## 11月中旬頃まで出荷

## JA阿蘇アスパラガス



## 「4月発信」グリーンアスパラガス

の春芽出荷最盛期を向かえた4月、日量63tの出荷が行われています。例年に比べ2月の平均気温が低かったため10日程出荷が遅れ、3月中旬からの出荷となりましたが、指導員の柚上隆之助職員は「他産地の出荷が少ない時期での、当部会の春芽出荷最盛期は例年になく収量が上がっている」と胸を張って語っていました。アスパラガスは

JA阿蘇の中でも特に作付面積が伸びている品目で、同部会では今年度部会員数73人で作付面積15.5ha、出荷量350t、販売高3億5千万円を計画しています。光沢良好のアスパラを見て販売担当の大申洋介職員は「自信を持って販売していきたい」と抱負を語っていました。

写真右アスパラガスを選別する職員

## 6月上旬より出荷開始

## 高原夏秋キュウリ

## 中部キュウリ部会

JA阿蘇中部キュウリ部会員の圃場では4月22日から、2010年産夏秋キュウリの定植（写真左）が始まりました。同部会では全体の98%がJA熊本経済連グリーンセンターへ定植苗を発注。それは健全苗であることと、農家個人で播種・育苗するより、購入苗が労働力やコスト面で良い結果が出ているからです。同部会の作付品種はブルーム、ブルームレスの2種類で、4月末から5月中旬が定植のピークとなりました。

指導員の井手友和職員は「長期間の作型だが、夏場の高温対策を十分に指導し、10a当たり収量を9t以上にしたい」と語っていました。出荷は6月上旬より始まり、主に九州地方市場を重点に出荷予定です。



## 昨年度の蘇陽地区との部会統合で「夏秋ピーマン」を一元化販売

## JA阿蘇南部地区



JA阿蘇南部地区では、4月25日から2010年産夏秋ピーマンの定植が始まり、ハウス栽培では5月上旬、露地栽培では5月中旬をピークに定植作業が行われました。

今年度の作付品種は、ハウス栽培が「京ゆたか」、露地が「かがやき」と「さらら」の3品種です。一部で昨年同様耐病性品種である「京ひかり」を作付し、生育状況及び収量性を見ながら、次年度の品種選択を行う予定です。今年には育苗期の天候が曇天傾向にあり、寒さが続いたことで昨年より7日程度生育が遅れています。指導担当の後藤真智職員は「定植後の栽培管理が収量に大きく影響してくるので、個々の生育状態を確認しながら指導していきたい」と話していました。

同部会は、作付前の土壌分析により必要な施肥量を算出し、無駄のない低コスト栽培を実践。また、販売面においても昨年度より隣接する蘇陽地区と部会を統合し、一元化販売を実施しています。今年度の作付面積は南部地区全体で約7ha（前年同）となっています。

写真右定植後の栽培管理をする部会員

## 夏秋ピーマン出荷始まる九州地区中心に約500t予定



JA阿蘇南部地区では、6月2日から2010年産夏秋ピーマンの出荷が始まりました。12月まで九州地区を中心に約500tの出荷を予定しています。今年には育苗期の生育遅れによる影響で、また定植後も気温の低下や夜温確保が不十分だったため、昨年よりも10日程度遅い出荷開始となりました。（写真右）品質確認を行うJA職員

高品質のミニトマトを栽培  
市場からも高い評価

白水ミニトマト部会



〔4月発信〕JA阿蘇南部地区管内の白水ミニトマト部会(足立輝幸部会長)では、4月下旬より2010年産ミニトマトの定植が行われました。同地区の後藤安弘さんのハウスでは定植後の栽培管理が行われ、ミニトマトの生育も良好です。今年には育苗期から定植時期にかけて曇天傾向や、気温の低下などの影響があり生育は遅れ気味となりましたが、後藤さんは「今後の天候回復に伴って、順調に生育していくだろう」と話していました。

本年度は生産者20人で5.4ha(昨年比98%)の栽培を行っており、品種構成はキャロルクイン(80%)、サンチェリーピア(20%)となっています。

同部会は、過去に県野菜振興協会より団体功労賞を受賞しており、長年にわたり高品質の商品を出荷し、市場からも高い評価を得ています。

(写真上)栽培管理をする後藤安弘さん

夏秋ミニトマト  
九州各地に出荷始まる

中部ミニトマト部会



〔5月発信〕JA阿蘇中部ミニトマト部会員の圃場では5月中旬、2010年産ミニトマトの定植がピークを向かえました。

今年には、育苗期前半の低温により、生育はやや遅れ気味で心配されましたが、後半は天候に恵まれ良質な苗が出来上がり、定植も順調に行われました。

今年からの品種は葉カビなど

の耐病性を兼ね捕え、梅雨時期の病害は心配ないとのこと。

指導員の平野伸太郎職員は「長期間の作型だが、夏場の高温対策を十分に指導し、10a当たりの収量を5t(k=5000円)の250万円(前年対比105%)以上生産したい」と期待しています。

出荷開始は6月上旬より始まり、出荷先は主に九州地方市場を重点に予定しています。

(写真上)定植を行う生産者

高原夏秋トマト  
販売高8億円を見込む

中部トマト部会

〔4月発信〕JA阿蘇中部トマト部会員の圃場では4月23日から、2010年産夏秋トマトの定植が始まりました。

今年には育苗期の低温及び長雨により、生育はやや遅れ気味で心配されましたが、良質な苗が出来上がり、定植も順調に始まりました。

同部会の作付面積は35haで、部会員は150人、販売高8億円を見込んでいます。

指導員の平野伸太郎職員は、「長期間の作型だが、肥培管理を十分

表紙写真「山吹水源」の説明

産山村の「山吹水源」は、同じく産山にある「池山水源」とともに有名な水源です。水源の直ぐ近くまで車で行くことができ、駐車場から森の小道を歩いて10分程で、原生林に囲まれた静かな水源にたどり着きます。湧水量は毎分30lで「熊本名水百選」のひとつです。近くには、全国棚田百選の「扇田」があります。



に指導し、10a当たりの収量を10t以上をめざし生産したい」と抱負を語っていました。出荷開始は6月上旬より始まり、出荷先は主に九州地方市場を重点に出荷されます。

(写真右)定植を行う部会員



直売で大好評！  
希少価値「色見スイカ」

高森スイカ部会



J A阿蘇高森スイカ部会では5月18日より「色見スイカ」の定植が始まりました。当日はJ Aの担当職員が生産者のハウスを回り、定植後の状況などの確認を行いました。

「色見スイカ」は、ほとんどのスイカ産地の出荷が終わりになる8月中旬が出荷最盛期となり、玉肥大もよく、糖度も12〜13度あり、県内では有名です。しかし年々生産者や作付面積の減少により希少価値の高いスイカとなつていきます。担当職員は「今年も市場への流通はほとんどなく、直売で品物がなくなるかもしれない。リピーターも多く、それらの人に今年も自信を持って届けられる」と期待を込めて話していました。

2010年度の作付面積は20a（前年同）で生産者は3人です。  
（写真右＝定植後の状況を確認する担当職員）

高森地区特産「ヒゴムラサキ」  
天候不順にも負けず例年以上の出来  
さらに大都市圏へ販路拡大

J A阿蘇南部なす部会（吉良山友二部会長）では、5月14日から「ヒゴムラサキ」の出荷を始めました。同部会では、昨年より東京・名古屋・福岡などの大都市圏への販路拡大に力を入れ、今年も同都市圏での消費宣伝を継続する予定です。

現在、収穫されているのは3月中旬に定植したもので、4月末に低温の影響があり、昨年より5日程度出荷開始が遅れたものの肥大と品質は例年以上の出来となっています。

「ヒゴムラサキ」は、7年前から高森地区の特産品として導入され、果肉がとともやわらかく、果物のようにそのまま食べることが出来、調理しても他の野菜類に紫色が移らず仕上がり、調理しやすいため、市場や消費地の評価が高くなっています。今年度の作付面積は28a（前年比84.8%）、生産者19人です。同部会では「昨年よりヒゴムラサキブランド

化研究会」を発足させており、今年には消費者との交流会も予定し、指導担当の後藤真智職員は「産地を消費者に見てもらうことで、さらに安全・安心なナスを届けていきたい」と、意気込みを語っています。出荷は12月末まで県内を含め東京・名古屋・福岡などの都市圏に向け行われます。



（写真右＝収穫間近な頃のヒゴムラサキ、写真左＝収穫作業をする部会員）

子供たちがシイタケのこま打ち  
青壮年部高森支部員が指導



J A阿蘇青壮年部高森支部は4月14日、高森中央小学校4年生40人にシイタケのこま打ちを教えました。この取り組みはこま打ちから収穫までを体験して、食と農の大切さを学ぶことが目的です。

子供たちは部員からシイタケ栽培の説明を真剣に聞き、最初はとまどいながらも、ひとこまひとこま丁寧に打ち込みました。

指導に当たった吉良山寿久さんは「最初、子供たちの手つきはぎこちなかったが、最後には楽しそうに取り組んでくれたのでよかった。今後もこのような体験を通して農業の面白さを伝えていきたい」と抱負を語っていました。

（写真＝子供たちにこま打ちを教える青壮年部員）

農作を願い「もち米」の種まき  
JA阿蘇青壮年部高森支部

青壮年部高森支部は4月14日、高森中央小学校5年生44人と総合学習の一環として、もち米の種まきをしました。この取り組みは種まきから収穫まで子供たちに行ってもらい、農業に関心を持ってもらうことを目的としており、今年で3年目となります。子供たちは部員の話真剣に聞き早速作業に取り掛かりました。戸惑いながらも一生懸命になっていました。指導した同支部の三森健史さんは「子供たちに農業の楽しさを伝えることは難しいが、継続することで農業に関心を持ってもらうとうれしい」と話していました。写真  
JA青壮年部の指導で種まきを体験する子供たち



「田植え体験」をテレビが取材  
青壮年部高森支部



青壮年部高森支部は5月21日、高森中央小学校5年生を対象に「田植え体験」を行い、RKK(熊本放送)のテレビ番組「浩一」がまだせー「熊本」の取材を受けました。

4月に同支部員と児童らが播いたもち米が順調に育ち、部員から田植えの手順の説明があり、初めて水田に入る子供たちからは大きな歓声があがりました。

取材を受けた三森伸治支部長は「07年より高森中央小学校全学年を対象に食農教育を進めてきた。今までの食農教育は田植えをして稲刈りで終わっていたが、



私たちは水田で出来る物を全て利用し、農業で作る物は捨てることがないなど、自然の大切さを伝えていきたい」と語っていました。

当日収録された番組は、6月5日午前7時15分から放送されました。

(写真上・右)テレビ取材を受けた「田植え体験交流の様子」

小学生と「阿蘇コシヒカリ」を田植え  
JA阿蘇青壮年部一の宮支部

阿蘇市立坂梨小学校5年生が5月21日、JA阿蘇青壮年部一の宮支部の宮崎英雄さんの水田で田植え体験を行い、盟友10人と児童11人が参加して「阿蘇コシヒカリ」を植えました。米作り体験は、10年前から青壮年部一の宮支部が小学校と一緒に食育、総合学習の

一環として行っているものです。

最初に倉岡誠喜支部長より「朝ごはんは食べて来たね？朝ごはん食べてない子供は田植えできない。とてもきつかけんね」などと、朝ごはんを食べることの大切さを伝えました。子供たちは、盟友から植え方を教わり、ぬかるむ土に苦勞しながらも、5日を1時間程で植え、やや疲れた様子でしたが、「土のぬるぬる感が気持ち良かった」「みんなと田植えができて楽しかった」「もうちょっとやりたい」などと泥だらけの笑顔で感想を話し、秋の稲刈りを楽しみにしていました。今後の水管理は青壮年部員が行い、2回ほどの草取りを子供たちが水田に入り行う予定です。

(写真上)田植えの指導を行う青壮年部の皆さん



# 収穫体験で大きなイチゴをゲット! 第5回「まるごとあそっ子スクール」始まる



生徒代表のあいさつをする  
恵幸乃さん



全員で「あそっ子スクールの約束」の唱和



大きなイチゴに  
大満足の笑顔!!



JA阿蘇の2010年度「まるごとあそっ子スクール」が5月29日開校しました。今回で5回目の開催となります。今年度は阿蘇郡市の小学校より37人が入校しました。開校式で、あそっ子スクール校長の中尾雄二組合長が「この1年間で農業の大切さを学び、たくさん友だちを作ってください」とあいさつ。そして、碧水小学校6年の恵幸乃さんが生徒代表の挨拶をしました。

あそっ子スクール行事の第1回目となる今回は、イチゴ狩りを体験しました。営農指導員や担任役のJA職員の指導を受けながら、ハウス内いっぱい広がってイチゴ狩りを楽しみました。子供たちは、イチゴを口いっぱいにはお張りながら「甘くておいしい」と歓声をあげ、大きなイチゴが取れるとお互いに自慢気に比べあっていました。

袋いっぱい収穫した子供は「お父さんお母さんとみんなで一緒に

食べます」と笑顔で話していました。

「まるごとあそっ子スクール」は12月まで5回開催し、今後はキャンプやジャージー牛乳搾り体験や親子での収穫体験などを開催する予定です。

参加者は随時募集中で、途中参加も可能です。詳しくは営農部営農企画課(電)0967(32)2223まで。



甘くておいし〜い★



# 自己能力を高め、誇れる職場作りを目指し、事業推進に取り組もう

2010年度推進目標を確約  
役員ら450人が参加し  
JA阿蘇全体職員事業推進大会



JA阿蘇は2010年度事業目標必達に向け5月22日、全体職員事業推進大会及び共済事業普及推進大会を阿蘇市で開き、役員ら450人が参加しました。

中尾雄二組合長は「二人ひとりが自己能力を高め、誇れる職場作りを目指し事業推進に取り組んでほしい」とあいさつしました。

共済事業普及推進大会では、全共済熊本県本部の古閑英範本部長が情勢報告をした後、共済推進活動について説明が行われました。10年度の事業計画・推進目標については、①地域農業の振興・地

域農業の戦略の実践、②自己資本の増強等財務基盤の強化、③不祥事未然防止の充実強化、④組合員・利用者のニーズに即した総合保障提供の実現、⑤農業とくらしに貢献し選ばれるメインバンク、⑥経済事業改革の実践―を基本方針に事業活動を行うことを目標として、重点的に推し進められることになりました。

その他、コンプライアンスプログラム、人権・同和問題啓発の推進についても併せて研修を行いました。(写真)JA阿蘇役員450人が参加した事業推進大会

## JA阿蘇退職者を表彰

JA阿蘇は4月30日、2009年度末で定年退職された3名の退職者表彰式を本所で行いました。

中尾雄二組合長から出席された2名の退職者へ感謝状と記念品



が贈られ、長きにわたり農協職員として組合運営に献身されたことへの功績を称え、その労をねぎらいました。

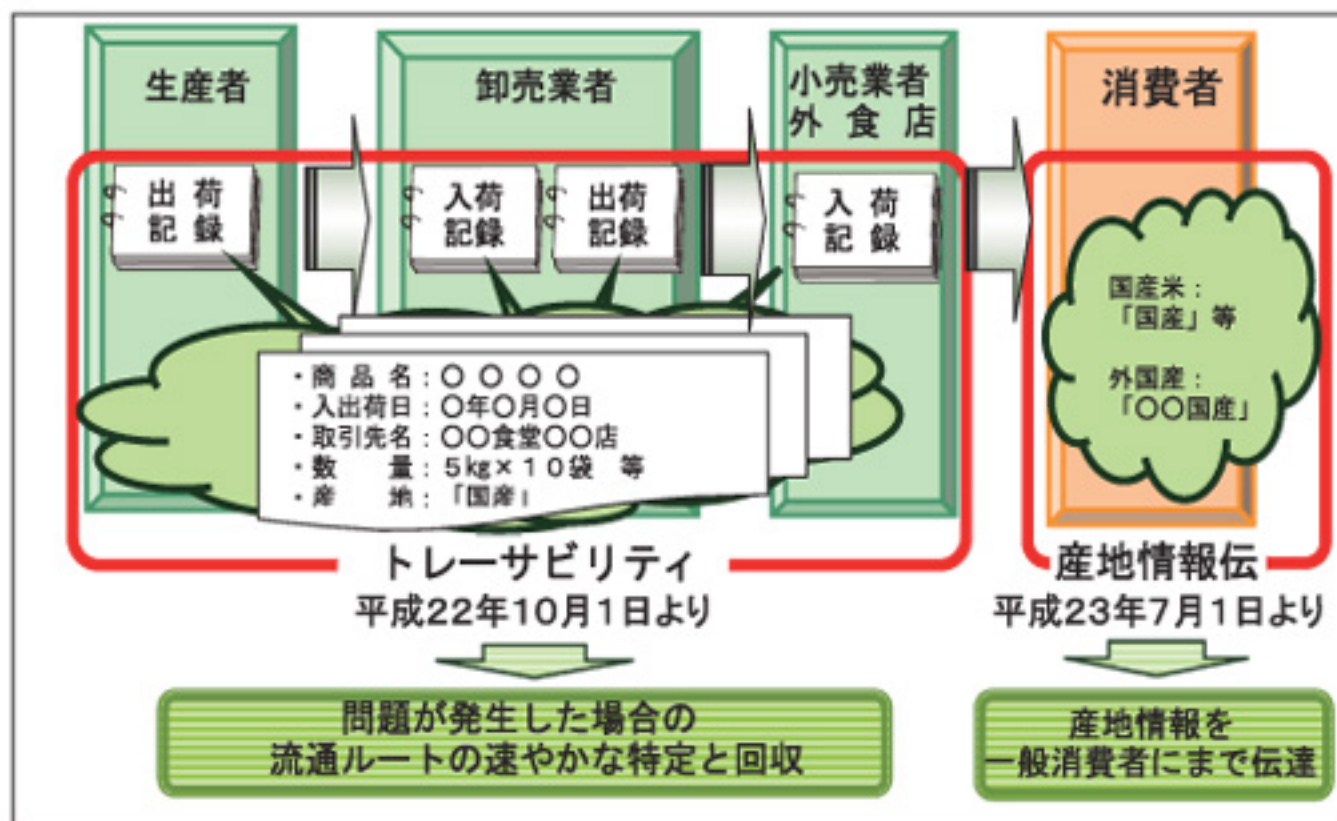
## JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 任 令	発 令 年 月 日	旧 任 令
佐伯 一雄	参事兼審査・債権対策事務取扱	平成22年5月19日	参事
山中 敬夫	高森中央支所長(部長待遇)	平成22年5月19日	審査・債権対策室長
野尻 英夫	総務部付	平成22年5月19日	高森中央支所長
都 信一	共済部業務課業務係(課長待遇)	平成22年5月19日	高森中央支所金融共済課長
野尻 範仁	高森中央支所金融共済課長	平成22年5月19日	野尻支所長
田上 清勝	野尻支所長	平成22年5月19日	高森中央支所購買課長
甲斐 いつみ	高森中央支所購買課長兼女性部係	平成22年5月19日	高森中央支所購買課購買係兼女性部係
呉 柁 龍一	高森中央支所購買課購買係	平成22年5月19日	共済部業務課業務係
矢津田 明大	営農部農産課農産係南部地区担当(高森駐在)	平成22年5月19日	営農部園芸課指導販売係南部地区担当(蘇峰駐在)

6  
水稻栽培農家の皆様へ！

米トレーサビリティ制度が  
10月から実施されます

平成21年4月に米穀事業者に対し米穀等の譲受け、譲渡しに係る情報の記録及び産地情報の伝達を義務付けることを内容とした法律が制定されました。取引等の記録・保存は本年10月から、産地情報の伝達は平成23年7月からスタートします



### 【取引等の記録の作成・保存】

米や種もみをJAや業者等に出荷・販売、購入を行った場合には、その記録を3年間保存する必要があります。なお、一般消費者への直接販売、縁故米等は記録の作成は不要です。

**JA等への出荷伝票は必ず3年間保存して下さい**

記録事項：品名、産地、数量、年月日、取引先名、搬入・搬出を行った場所、米穀の用途等です

### 【お問い合わせ先】

九州農政局消費・安全部地域第四課(電話:0968-25-2137)



## 理事会・監事会報告

### ■平成22年度第1回理事会

日時 平成22年4月28日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

#### 1. 開会

#### 2. 組合長挨拶

#### 3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会・総務専門委員会・債権管理委員会)

#### 3月末実績報告

- 1) 信用供与限度額決定について
- 2) 平成22年度貸出金利息の最高限度及び借入金の最高限度について
- 3) 農地保有合理化事業規程の廃止並びに農地利用集積円滑化事業規程の制定について
- 4) 役員退職慰労金規程の改正について
- 5) 自己資本比率算出要領の改正について
- 6) JA阿蘇JASUTEM次期システム移行時危機管理計画の制定について
- 7) 平成22年度JA阿蘇不祥事未然防止のための行動計画(案)について
- 8) 平成22年度コンプライアンス・プログラム(案)について
- 9) 平成22年度内部監査計画書(案)について
- 10) 平成22年度JA阿蘇職員初任給改定(案)について
- 11) 貸出金について
- 12) 平成22年度固定資産取得・処分について
- 13) 固定資産減損損失処理(案)について
- 14) JA活動総合3カ年計画(平成22年度～平成24年度)(案)について
- 15) 肉用牛肥育経営安定対策事業(マル繁事業)の対応について
- 16) 役員の政経分離について

#### 報告事項

- 1) 平成21年度決算監事監査日程人員配置実施場所について
- 2) 平成21年度下期内部監査実施報告書について
- 3) 平成22年度ゴールデンウィークのATM稼働について
- 4) 全国監査機構決算期末監査日程について
- 5) JAバンク基本方針の変更について
- 6) 役員報酬審議会報告について
- 7) 農政懇談会の開催について

#### 4. 閉会

### ■平成22年度第2回理事会

日時 平成22年4月30日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

#### 1. 開会

#### 2. 組合長挨拶

#### 3. 協議事項

- 1) 平成21年度資産査定結果について
- 2) 平成21年度事業報告及び剰余金処分案について
- 3) 平成22年度事業計画及び関連事項について
- 4) 平成22年度固定資産取得計画について
- 5) 第9回通常総代会提出議案について
- 6) JA阿蘇総合損益5カ年計画(平成22年度～平成26年度)(案)について
- 7) 平成22年度家畜導入計画及び貸付利率について
- 8) JAバンク利用者保護等管理方針(案)について
- 9) 口蹄疫発生に伴う緊急対応について

#### 4. 閉会

### ■平成22年度第3回理事会

日時 平成22年5月28日午後1時30分/場所 一の宮中央支所会議室

#### 1. 開会

#### 2. 組合長挨拶

#### 3. 協議事項

委員会報告(総務委員会・経済専門委員会)

- 1) 平成21年度最終決算について
- 2) 総代会開催に伴う総代に対する招集通知等について
- 3) 総代会特別提出議案の追加について
- 4) ATM設置用ブース(盗難防止枠)設置について
- 5) 畜産近代化リース事業借受申請について
- 6) 出資減口申込みについて
- 7) 役員候補者推薦内規の一部改正について
- 8) 大口取引対応について
- 9) 新規参入円滑化等対策事業について
- 10) 平成22年度産地収益力向上支援事業について
- 11) アスバラ計量結束機導入について
- 12) 平成21年度決算期末監事監査報告について

#### 報告事項

- 1) 総代会事前説明会の地区別懇談会開催について
- 2) 熊本県常例検査日程内容について
- 3) 平成22年度購買事業推進個人目標について
- 4) 子牛販売仮救済緊急支援特別措置要領について
- 5) 口蹄疫に伴う子牛販売仮救済緊急支援特別措置の状況について
- 6) JA阿蘇口蹄疫対策本部の設置について
- 7) 口蹄疫発生に関する総代会の対応について
- 8) JAグループ熊本による口蹄疫対策募金活動の実施について
- 9) 不祥事未然防止のための行動計画  
部署別進捗管理情報の22年3月末実績報告について
- 10) 平成21年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの22年3月末実績報告について

#### 4. 閉会

### ●平成22年度第1回監事会

日時 平成22年4月22(木)午後1時30分/場所 本所2階第1会議室

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

#### 3. 議題

- 1) 平成21年度導入家畜等欄監事監査回答書について
- 2) 平成21年度決算欄監事監査報告(案)について
- 3) 平成21年度下期内部監査実施状況報告について
- 4) 平成21年度決算事務監事監査の日程及び人員配置(案)について
- 5) JA全国監査機構決算期末監査計画について
- 6) その他  
①ハウスリースの現地確認について  
②平成22年度 内部監査計画書(案)について

#### 4. 閉会

### ●平成22年度第2回監事会

日時 平成22年5月26(水)午後1時30分/場所 本所2階第1会議室

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

#### 3. 議題

- 1) 平成21年度決算事務監事監査報告書(案)について
  - 2) 平成22年度見直しについて
  - 3) その他
- #### 4. 閉会

金利上乘せ

JA貯金

なつとく

夏得

キャンペーン2010

期間 平成22年 6月1日(火) ▶ 8月31日(火)



キャンペーン対象商品 ▶

あなたの  
プランに含  
めて確実に

定期貯金

(預入期間:1年以上)

10万円以上の新規ご契約の方に

定期貯金金利が店頭金利に年0.07%上乘せされます!!

さらに①もしくは②の方には、**年0.03%上乘せ!!**(合わせて**年0.10%上乘せ**)

- ① JAカード(クレジットカード)をご契約されている方、新規にお申しただけの方
- ② JAで年金を受給されている方、または、受給される方

※上乘せ金利の適用は、お預け入れ時から初回満期日までの当初預け入れ期間のみとさせていただきます。※中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率を適用させていただきます。※JAカードをご契約されている方は、JAカードをご提示下さい。※JAで年金を受給されている方は、通帳をご提示下さい。

詳しくは店頭または  
HPでご確認ください。

JAバンク熊本ホームページ  
<http://kumamoto.jabank.org>

JA阿蘇

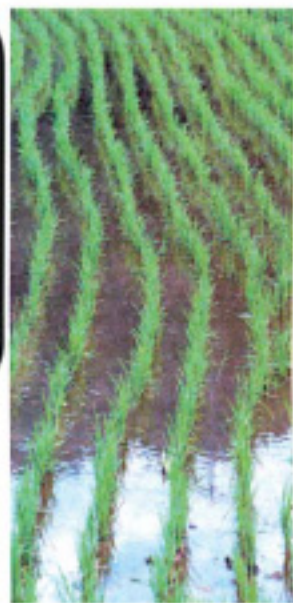
# 水田農家の皆さんにお知らせです！

## 戸別所得補償モデル対策の 加入申請は6月30日まで

加入申請手続きは最寄りの  
市町村・JA（地域水田協議会）で  
受け付けています。  
お問い合わせ下さい！



手続きについては



### 「加入申請書」と「作付面積確認依頼書」を提出して下さい

- 戸別所得補償モデル対策（自給率向上事業及び米のモデル事業）に加入するためには、「加入申請書」「作付面積確認依頼書」を6月30日までに提出して下さい。
- 「作付面積確認依頼書」は、地域水田農業推進協議会から配布された水稻生産実施計画書や営農計画書を代用することができます。
- 調整水田等の不作付地がある方は、「改善計画書」を提出して下さい。（米のモデル事業の対象者）

【お問い合わせ先】 最寄りの水田農業推進協議会（市町村、JA）

もしくは、

九州農政局消費・安全部地域第四課（電話：0968-25-2137）

九州農政局阿蘇統計・情報センター（電話：0967-32-2510）